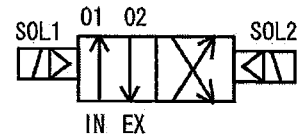


取扱説明書

四方向電磁弁

BN-767S2-8A~40A

防水型



1. 仕様

呼び口径	8A	10A	15A	20A	25A	32A	40A	
配管接続口	Rc1/4	Rc3/8	Rc1/2	Rc3/4	Rc1	Rc1 1/4	Rc1 1/2	
使用流体	空気							
使用圧力	0.15~0.8MPa			0.2~0.8MPa				
耐圧力	1.2MPa							
周囲温度	-10~40℃							
有効断面積(mm ²)	25	40	45	90	140	220	230	
応答時間(ms)	25		30		40			70
製品重量(kg)	6.0		9.2		12.4			18.6
推奨潤滑油	タービン油1種 (ISO-VG32相当品)							

パイロットバルブ

ソレノイド型番	L01-b	
定格電圧	AC100V/200V (50/60Hz共用)	
	DC12V、24V、48V、100V	
消費電力	AC起動時 100/85VA (50/60Hz)	
	定常時 18/16VA (50/60Hz)	
電圧許容範囲	±10%	
絶縁階級	E種	

2. 手動操作

調整時または緊急切換時にはプッシュボタン(28)を指で押して操作してください。このボタンを押すとパイロットバルブが開き、空気圧はパイロットバルブを通じ本弁ピストン部へと流れ、このパイロットのソレノイド励磁と同様に弁が切換わります。これを押している間は流れますが、指を離すとパイロットバルブが閉じる構造となっています。

3. 取付・点検・洗浄

- 3.1 取付姿勢は原則としてソレノイドを上にした水平位置に取り付けてください。取付にはボディに設けてある取付穴で行ってください。
- 3.2 保守点検には便利のように周囲に余裕空間を設けてください。特にスプール軸方向には大きい空間を取ってください。

3.3 配管はボディ記号に明示の通り間違いなく行ってください。

IN : エアコンプレッサからの空気源接続口

O1 (OUT1) : 空気圧シリンダ接続口 (SOL1 励磁で空気圧が出ます)

O2 (OUT2) : 空気圧シリンダ接続口 (SOL2 励磁で空気圧が出ます)

EX (EXH) : 排気口

3.4 配管の前には管内を十分にフラッシングして固形物やシールテープ破片などが入らないようにしてください。

3.5 故障原因の大半は空気中の異物やドレンです。上流側にフィルタを設けて目詰まりを防ぐことが必要です。

3.6 給油は本弁の上流側のフィルタとの間にルブリケータを設置してください。そして潤滑油は必ずタービン油1種 (ISO-VG32相当品) を用いてください。

3.7 取付後6ヶ月から1カ年に1度は詳細な機能点検を行い、良好なコンディションを維持してください。点検の際は、スプールバルブパッキンやピストンパッキンの組込順序や方向にご注意ください。組込を誤るとシール効果が無くなったり正常に作動しなくなったりします。

3.8 部品洗浄の際は金属製部品については、シンナーやトリクレンなどの溶剤を用いられても差し支えはありませんが、金属製以外の部品については鉱物性の軽油で洗浄してください。また洗浄後はシンナーやトリクレンなどがパッキン溝に残留しないように丁寧に拭き取ってください。この残留溶剤がパッキン不具合の原因になることがありますのでご注意ください。

4. 故障の原因と対策

4.1 通電しても本弁が作動しないとき

1) 操作圧力 (0.15~0.8MPaまたは0.2~0.8MPa必要) を確認してください。

2) 手動で作動するかどうかを確認してください。

4.2 パイロットが作動しないとき

電気系統・空気圧ともに正常なときは、パイロット部をチェックしてください。

4.3 パイロット部に異常がないとき

ピストン及びピストンパッキンまたはスプールバルブパッキンを点検してください。

4.4 空気漏れ

1) EXよりの空気漏れ

スプールバルブパッキン (呼び口径15AまではYパッキン、呼び口径20A以上はUパッキン) の異常と思われます。また本弁の異常ではなく接続されているエアシリンダなどのシールパッキンの異常の場合があります。これも点検してください。

2) パイロット部の排気口よりの空気漏れ

パイロットピンパッキンの異常です。パイロット部を点検してください。

4.5 パイロット部に異常がなければピストン(5)のOリングを点検してください。これが損傷するとピストン(5)の両端の圧力の保持が困難となります。